

「ODAの理念は正しいのか」

OSIPP 政策フォーラム

日本の援助理念をテーマとする OSIPP 政策フォーラムが2月21日、大村昌弘・日本国際問題研究所研究調整部長を招いて OSIPP 棟で行なわれた。同氏は外務省で第2回アフリカ開発会議準備室長やアフリカ第2課長を務め、経済協力開発機構(OECD)事

務局でも勤務するなど経済協力を長らく担当。講演では日本の対外理念の変遷について、歴代政権の動向や野党の対案、政府開発援助(ODA)大綱の出現とその見直しの動きまでを解説。「ODAの理念は何が正しく何が誤っている」とは言いがたい。国の政策である以上、国会などで民主的に決めるべき」という持論を語った。

就職活動報告会で後輩にアドバイス

国際協力銀行、朝日放送、松下電器、富士通、大阪市などに内定

依然厳しいとされる就職状況の中、博士前期課程2年の学生による就職活動報告会が1月17日、OSIPP 棟で開催された。就職や同後期課程への進学などを決めた学生によって毎年開かれているもので、後輩の就職活動の参考にと自己の経験を報告して

いる。この日は3人が活動方法や流れ、面接での質問などを報告、満員の学生が熱心に聞き入っていた。

卒業予定者の就職先は以下のとおり(事務部に届けがあったもの)。日本フィッツ、富士通、エクストリーム、日本アイ・ビー・エム、日本イー

ライリリー、日立電線、大阪市役所、ピーエーエスエフジャパン、松下電器産業、シャープ、国際協力銀行、IBM Business Consulting Service、エフ・シー・シー、朝日放送、レコフ。

ソーシャル・キャピタル 研究会が発足

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本、市民社会資本)の重要性の高まりを受け、山内直人教授により発足された「ソーシャル・キャピタル研究会」の第1回会合が9月7日、開催された。信頼やネットワークなどの人間関係、社会関係に関する見えない資本、いわば地域レベルの付き合いの濃密さを示す指標であるソーシャル・キャピタルは経済学や経営学、政治学、社会学などにおいて新しい学際トピックになりつつある。

◆研究室紹介◆

山内 直人教授 研究室

(公共経済学、NPO・NGO 研究)

学際研究とは「足して2で割るのではなく、自分のディシプリンを武器に他の分野へ道場破りをする」と語る。OSIPPではNPO(民間非営利団体)の研究フォーラムや「ソーシャル・キャピタル研究会」を主宰するなど、新しい学際研究分野を意欲的に開拓してきた。異分野交流を心がけ、自分の専門分野に応用できるものはないかと常にアンテナを張っておくことが、新しいテーマを見つけるために大切だという。行政学会、政治学会など専門外の国際学会に招待されることも多い。

阪大経済学部卒業後、日本銀行からも内定を受けたが「自由で知的な雰囲気にあこがれ」、当時の経済企画庁へ。1978年から14年間、官庁エコノミストとして政策立案の第一線で活躍した。その間、苦手な英語を克服するため上智大学に通った。夕方職場を抜け、学校に行ったあと再び仕事に戻るという日課を続けた努力家。その甲斐あって英国政府からの奨学金でロンドン・スクール・オブ・エコ

ノミクス(LSE)大学院へ留学。実はOSIPP創設の時、LSEの名前を思い出してOSIPPの英語名(Osaka School of International Public Policy)を命名したのだという。

92年、阪大経済学部の竹中平蔵助教授(現・財政金融担当相)の後任として2年間の予定で出向。期間終了後も霞ヶ関には戻らず、当時新設されたOSIPPに居着いてしまった。「官庁も若いときは面白いが地位が上がると研究ができなくなるので足を洗うには潮時だったかも」と振り返る。

第一人者として知られるNPO研究のきっかけは、90年に『経済白書』を執筆した際に取り上げたことがきっかけだという。現在ではNPO関係の著書が6冊、さらに近く数冊出版される。なかでも日経文庫の『NPO入門』は版を重ね3万冊近くが売れた。ただし「NPOはあくまで政策研究の応用問題の一つ。これからは医療、教育、国際協力などニーズのある研究に手を広げていきたい」と意欲をみせる。

多忙のため明け方まで研究室にいたことが多いが、趣味は出張などの合間に知らない土地を訪ねる

こと。海外だけでなく小笠原諸島の父島・母島、沖縄の西表島や北海道の天売島などにも足をのぼす。しばしばマイカーで学生たちと食事に出かける気さくな一面も。

指導を担当する学生はOSIPPと経済学研究科で常時20人ほどの大所帯。院生の研究テーマはNPO・NGO(非政府組織)をはじめ政策評価、教育、環境、国際協力、ソーシャル・キャピタルなど多岐に渡る。「宮仕え時代から仕事は選り好みしない。基本的にはどんなテーマでも学生を指導するが多少回り道でも統計学などの基礎はちゃんとやれ」というのが方針だ。